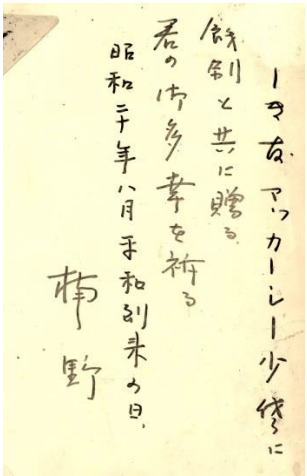
尋ね人　楠野勲少尉

福岡俘虜収容所第２６分所（麻生鉱業吉隈炭鉱）所長

第２６分所長楠野勲少尉



マッカーシー軍医から楠野少尉へのメモ

マッカーシー軍医ら英・蘭・豪の捕虜（福岡２６分所前）

最近、アイルランド（共和国）のテレビ局からＰＯＷ研究会に対して、ドキュメンタリー番組制作のための依頼がありました。

それによると、アイルランド南部のCastletownbereという町の有名なパブに、日本刀が飾ってあります。その刀は、パブの女主人のニコラ・マッカーシー（Nicola McCarthy）の父親で、第二次大戦中、イギリス軍の軍医だったエイダン・マッカーシー（Aidan McCarthy　１９１３－９５）が日本で捕虜生活をしていて、終戦時に日本の捕虜収容所長からおみやげにもらったものです。

エイダン軍医はジャワで捕まった後、日本へ送られ、福岡第１４分所（長崎市幸町の三菱重工業長崎造船所）に収容されていて原爆も体験しましたが、終戦前後に、福岡県の筑豊炭田の捕虜収容所へ行ったことがあるらしく、パブに残されている資料や写真から、彼が福岡第２６分所（福岡県嘉穂郡桂川町吉隈の麻生鉱業吉隈炭鉱）分所長の楠野勲少尉から、その日本刀をもらったことが判明しました。

この８月には、アイルランドのテレビ局とニコラ・マッカーシーさんが九州を訪問して父親の縁の場所や人物を訪ねる予定です。楠野勲少尉やご家族に会って、ぜひお礼を言いたいので、消息をご存知の方があれば、教えてほしい、とのことです。

皆さんのご協力をいただければ幸いです。